



和 顔 施

松尾 祥子

(東京)

このごろの私

長女が二人目の子を出産。
上の男の子は夫そっくり、今
度の女の子は私そっくりで、
娘は「父さんと母さんを育て
る夢が叶った」などと言う。
私は、孫達の世話と九十二歳
の母の介護に追われる日々。

ゆきあひの空を飛び交ふ赤卒をしばし見てをりマスクをつけて

正・悪で二分する世にわつと咲く赤曼珠沙華、白曼珠沙華

お彼岸のおはぎ此岸に食むわれら賑やかに噂供養しながら

ビッグバンののちの百億年余経し命のしづく子に宿りをり

これの世に子を産む怖さ さはあれど子は子の未来拓きゆくべし

臨月にワクチンを打ちPCR検査して子は産院に入る

神無月一日台風16号近づくまひる女めの孫生るる

岸田新総理、横綱白鵬の引退ふつ飛ぶ 孫が生まれた

みどりごにミルクを飲ます二歳の児「にいちやんだよ」と声かけながら

眞子様様の結婚記事のわわしさに心しづめて読む『小紺珠』

宮先生は父母の仲人をさなき日祖父のごとくに頭づを撫でられき

朝なさな越の田舎の仏間にて般若心経唱へぬし祖父

五人目の曾孫を腕にそつと抱く九十二歳の母の和顔施わがんせ

わが知らぬやさしき声ぞふたり子に語りかけぬる吾子の愛語施あいごせ

テクノロジー進化する世を生きのびてヒトはいつまでヒトでをれるや



笑はす母

中島 涼
(高知)

このごろの私
直前まで畑に出ている母が
昨年末亡くなった。畑に出る
のは私一人となり、草ぼうぼ
うでギブアップす前。母の縁
もあり、野菜づくりをしてい
る近隣の方と話したりするこ
とが増えた。有難いです。

毎日を川見て暮らす犬とわれけふは一羽の白鷺に会ふ

朝あさに犬曳きゆけば川舟に蟹かご揚ぐる男らの見ゆ

川舟と老いが一つとなりて打つ網は水際に鮎追ひつめる

じようろ提げ何往復もする菜園日照りのつづく茄子二十本

さあ刈れと言ふがごとくに雨あがり草つんつんと伸ぶる放棄地

エンジンを切れば休まる草刈り機刃先に止まる飛蝗一匹

いつの間にできし胼胝かとさする指母亡き畑の草刈り終へて

縁側にしばし肉球日に当てる小さい秋を見つけたる犬

好きな人嫌ひな人のわかるらし呼び鈴の鳴る前に犬吠ゆ

畑隅に草積み上げしすき間より咲くひがなばな一つしる色

人の真似するを嫌ひし母なりき己が流儀に野菜づくりす

かほ、あたま、こんじやう悪しきに長生きと人ら笑はす母のいませり

戻り来し者なきゆゑによき所と人ら笑はす母のいませり

そこここに杖を忘るる母なりき倉庫、玄関、シルバーカーに

いま少しシルバーカーを残し置く母の使ひし杖を載せおき